

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校が受け継いできた『やさしさ かしこさ たくましさ を育てる』という教育目標を実現するために

- 1) 自立心・組織力・企画力を養う自主活動を支援する
- 2) 「普通科高校」ならではの幅広い教養と、基礎基本の学力を身に付けさせる
- 3) 「交流」をキーワードに、校外の世界との交流を進める

以上を柱立てとする教育実践を通して、夢と志につながる進路実現を図りつつ、地域の人には「愛され、認められる学校づくり」を、生徒・保護者には「入学してよかったと思える学校づくり」をめざす。

## 2 中期的目標

## 1 自主性・社会性を養う生徒会活動・部活動の充実

(1) 生徒会活動・部活動を通して生徒の達成感、充実感を体感することにより、やればできるという自信を育てる。

ア 体育的行事において、生徒会部を中心に三年学年団による生徒のリーダー育成、縦割り組織による企画・組織運営に取り組ませる。

イ 文化的行事において、企画力、協力する態度、責任感を養う。

ウ 部活動の活性化により、学校生活をより充実したものにする。

※ 生徒向け学校教育自己診断による生徒会行事、部活動に対する生徒満足度、平成 26 年度における満足度 文化祭 81.7% 体育祭 82.2% 修学旅行 82.4% 生徒会活動 64.0% 部活動 79.2%を平成 29 年度には、すべて 80%以上にする。

## 2 確かな学力の育成と生徒個々の進路実現

(1) 教員の指導力の向上を図る

ア 研究授業を充実し、研修を進める。

イ 教科毎の授業工夫改善を継続し、進路実現のための補習・講習を充実させる。

ウ 教員向けの各種アプリケーション研修を行い、授業における ICT 活用を進める。

※ 生徒向け学校教育自己診断による授業満足度平成 26 年度は、選択教科の工夫 64.8% わかりやすく楽しい 55.4% 自分の考えをまとめる、発表する機会がある 49.9% コンピューターやプロジェクターを活用している 51.3% 質問しやすい 62.2% を、平成 29 年度には、すべて 80%以上にする。

(2) 3 学年を見通した進路指導計画・課外講習を再点検し、進路実績の向上を図る

ア 1 年次からの分野別説明会、大学見学会等、進路選択の学年行事を進路指導部が総括して計画実施する。

イ 低学年からの進学講習（専門学校・公務員・就職対策を含む）を実施することで基礎学力を定着させ、学習習慣を確立させる。

ウ 進路決定までの学年進行に合わせて、基礎学力調査における判定を各々 1 ランク向上することを目標とさせて進路指導する。

エ 自学自習の力を伸ばさせ、難関大学の進学実績の向上をめざす

※ 秋実施の基礎学力調査・学習到達度 B ゾーン以上（26 年度 2 年生国語 40.1%、数学 32.8%、英語 22.2%、国数英 16.6%、1 年生国語 30.3%、数学 32.5%、英語 22.7%、国数英 19.6%）を平成 29 年度には平均で 40%以上にする。

※ 国公立・難関私立大学の合格者平成 26 年度 13 人（現役）を平成 29 年度には 30 人以上に、それに準じる有名私立大学合格者平成 26 年度 57 人を平成 29 年度には、80 人以上にする。

## 3 幅広い交流体験の推進

(1) 障がいがある人との交流活動を通して、自分だけでなく他の人も大切にす本当の“やさしさ”を育む

ア 藤井寺支援学校との交流活動を継承・発展させる

(2) さまざまな人との幅広い交流体験活動の推進

ア 地域活動（新春セミナー・藤彩展・市民講座・校外清掃・地域の催しへの参加、地元小・中学校や幼・保育園との連携活動）の継続発展。

イ 適切な情報提供と時期・内容の精選により、生徒の高大連携への関心を高める。

ウ PTA、同窓会の協力の下、海外語学研修の定例化を図りつつ、藤井寺市海外交流委員会と連携し、短期留学生の受け入れを継続する。

エ 社会で活躍中の先輩や諸分野のゲストを招き、生徒が自らの生き方を考える機会を増やす。

※ 生徒向け学校教育自己診断で、「保護者や地域の人々と関わる機会がある」50.2%、平成 29 年度は 80%以上にする。

## 4 教員の学校運営への参画が、より促されるよう、教科・分掌組織で学校経営計画を基にした年度目標を立てる。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
◇生徒アンケート 昨年度に比べて、ポイントがマイナスとなった設問は 13（悩みを相談できる先生がいる 58.1→53.4）・14（集会の話はわかりやすく為になる 57.8→47.3）の 2 つである。設問 13 であるが、最も低い 2 学年では 40.5 ポイントと、大きなマイナスとなっている事の原因を考える必要が有るだろう。もっとも大きなマイナスとなったのは設問 14 であるが、集会全般の評価となった事が大きな要因ではないか。つまり、学年集会では注意や指導が中心となることも多く、マイナスイメージが大きくなったとも考えられる。全体として特に注意すべき点は第 2 学年の結果が他学年よりも低い点だろう。この傾向は昨年度よりポイントの平均が高くなっている設問でも見られ、原因の調査が必要。	第 1 回(7/2) ○来年度の選抜について ・中学校では学力調査や絶対評価等、今までのようにデータの積み重ねがなく、分析し判断するのが非常に難しい。「各高校に特色を」と言っているのは理解できる。中学生には、説明会・体験入学などで、自分の目で見えて確かめることを勧めている。その意味で高校が、体験入学や授業見学の機会を作ってくれるのはありがたい。地元を大切にしてくれている。 ○中学生向け学校説明会について ・説明会で、生徒が主体に動いているのを見れば、中学生にも影響を与えられると考える。中学校から見ても、まじめにこつこつ努力する生徒を育ててくれている。中学の先生のなかにも藤高出身の先生がおられます。

## ◇保護者アンケート

まず、今年度と前年度の設問 20(PTA 活動に参加することがある)の数値の差に注目したい。数値的には大幅な減少(81.2→13.6)となるのだが、この大きな理由と考えられるのがアンケートの提出率である。前年度はアンケートの提出数は非常に悪く、全学年で 301 しかなかった。一方今年度は全学年では 696 の回答が提出されている。更に調べてみれば前年度の PTA に関する設問に答えていた保護者の総数は 35 であり、無回答が多かった。つまり前年度は、無回答で帰って来た設問も多数あったということである。この設問に関しては特に、PTA 活動に参加した保護者の大半がアンケートを提出していただいていた事が、この大きな差になっていると考察される。同様の理由から、設問 20 以外においても保護者のアンケート結果は前年度よりも辛目となった事が考えられる。

最初から見てみると、設問 1(子供は「学校に行くのは楽しい」と言っている)では、前年度に比べて 2.4 ポイント減っているが全体として 80.2 ポイントと生徒よりも高い値を示しているのが特に心配は無いかもしれない。次にマイナスだった設問 6(先生は生徒を適切に評価している)でも全体として 82.3 ポイントと高い値であるので特に問題にはならないだろう。次の設問 7(学校では命の大切さや人権について学ぶ機会がある)では保護者の評価がマイナスであるのに対して生徒の評価はプラスとなっている。つまり、生徒は実際にその学習を体験しているのに対し、保護者の方は情報が不足している事が原因と考えられる。これは設問 8(学校は国際交流活動に力を入れている)や設問 9(学校の生徒指導方針は理解できる)でも同様に考察できる。一方で設問 10(子供が悩みを相談できる先生がいる 77.3→53.3)、設問 11(学校は保護者の相談に適切に応じている 83.2→72.6)のマイナスは重く受け止める必要があるだろう。特に設問 10 は生徒の評価においてもマイナスが問題となったところであり、全体の肯定度もほぼ同じとなっている。生徒の悩みへの相談を更に丁寧に行って行きたい。設問 17(学校の施設・設備にはほぼ満足している 68.7→59.1)のマイナスにも次年度は答えて行く必要があるだろう。生徒分と同じく第 2 学年の肯定度が他学年に比べて全体的に低いのは早急に対策を講ずる必要があるだろう。

## ◇教職員アンケート

ほとんどが 8 割以上の肯定度を示している中で、設問 9(カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている 63.6 ポイント)、設問 15(校長は自らの教育理念や学校運営に対する考えを明らかにしている 68.1 ポイント)、設問 17(各種会議が教職員間の意思疎通や意見交換の場として機能している 62.2 ポイント)、設問 19(本校は清掃が行き届いている 57.8 ポイント)が、今後改善すべき点を示している。

一方課題は、設問 10(生徒が教育相談できる教職員がいる)の値が 84.5 と高かった事ではないか。これに連動する生徒の設問 13、保護者の設問 10・11 の値は低かったのであるから、次年度以降、生徒・保護者の相談へ力を入れて行かねばならないだろう。

## 第 2 回(11/27)

## ○HPについて

- ・部活動の試合予定を入れてほしい」

## ○学校説明会について

- ・どういう先生がいるのかの教員紹介があってもいいのでは

## ○授業アンケートについて

- ・社会科の評価が高いのはどういう理由からか、理数科は難しいのですか。大学はもっと厳しい授業評価があります。個々の先生への返しをしっかりと欲しい。そうすると書く生徒もきっちり書いてくれるのでは。しかしどの学年もよくなっていますね。3年生は、平均が高いですね

## ○施設設備について

- ・校舎の修繕はすぐにはできないのですか

## ○来年度の選抜について

- ・選抜が 1 回になりますか、影響はありますか。
- ・3年連続定員割れしたら、どうなるのでしょうか
- ・様々な取り組みを聞かせていただきました。順調に推移していると思います。1 回入試になりますので、広報の方、頑張ってください」

## 第 3 回(3/2)

## ○各取り組みについて

- ・1 年大学見学会、2 年ブース型説明会の状況は。
- ・保健部 A E D 講習について。
- ・総務部クラブ特別予算の決定方法について。
- ・センター受験者倍増は、数字を残している。
- ・自転車を通える学校で、勉強もクラブもできる学校で有り続けてほしい。
- ・進学実績など目先の数字だけでなく、10年後の成長を見据えての視点で育ててほしい。
- ・行事などで「数字」に表せないものが、出てきているのを感じる。
- ・クラブ員はよく挨拶をし、楽しみな学校だと感じています。
- ・教育計画自己評価もほとんど◎か○、教員が前向きに取り組んでいるのがわかる。
- ・数字であらわせないものがよくでている学校。

## 提言

- ・大学でも上り調子の学校は、「広報」が上手。生徒の取り組みをもっと伝えられればいい。生徒や P T A が、説明することも考えては。
- ・公立は後期入試一本で平等な競争になった。次は私学との競争になるが、進学実績以外で、公立が果たしている役割をアピールしてほしい。
- ・ホームページを、中学生が見ているし、影響力あります。中学生が関心を持つような内容に。
- ・藤高の生徒は、エネルギッシュ、主体的に動ける生徒なので伸ばして欲しい。

## 校長より

- ・2月に、生徒保健委員会の保健研究大会への連続参加と、これまでの本校の保健活動に対する評価を受け、日本学校保健会に推薦され、「全国健康づくり推進校最優秀賞」を頂いた。
- ・プロジェクターを 2・3年の教室にも 3月中に設置。(全 HR 教室を ICT 化) 4 月からの授業が画期的に変わります。
- ・広報では、校舎壁面に、常設「懸垂幕」を設置。藤井寺市役所壁面にも掲示許可。今回の全国表彰並びに、生徒の活躍をアピール。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自主性・社会性を養う生徒会活動・部活動の充実	<p>(1) 生徒会活動・部活動を通して生徒の達成感、充実感を体感することにより、やればできるという自信を育てる</p> <p>ア 体育的行事において、縦割り組織による企画・組織運営に取り組みさせる</p> <p>イ 文化的行事において、企画力、協力する態度、責任感を養う</p> <p>ウ 部活動の活性化により、学校生活をより充実したものにする。</p>	<p>ア・生徒会部を中心に三年学年団による生徒のリーダー集団の育成、そのリーダー集団を中心に、企画から下級生をまとめた組織運営に取り組みさせる</p> <p>イ・クラス単位での企画、運営において、クラスの協力体制や責任感を育てる</p> <p>ウ・自分たちで主体的に部活動に取り組むことでやりがいや達成感を味わわせる。</p> <p>エ・生徒会活動を執行部のみの突出した活動にせず、生徒議会を活性化することで全校生徒の意識を高める。</p> <p>オ・修学旅行実施の企画、運営に、生徒を主体的にかかわらせることで意欲関心を高め、自分たちの行事として、経験させる</p>	<p>生徒向け学校教育自己診断による生徒会行事、部活動に対する生徒満足度、</p> <p>ア 体育祭 80%以上の維持 (H26 82.2%)</p> <p>イ 文化祭 80%以上の維持 (H26 81.7%)</p> <p>ウ 部活動 80%以上 (H26 79.2%)</p> <p>エ 生徒会活動 70%以上 (H26 64.0%)</p> <p>オ 修学旅行 80%以上の維持を目指す。 (H26 82.4%)</p>	<p>ア 体育祭 80%以上の維持 (H26 82.2%)</p> <p>イ 文化祭 80%以上の維持 (H26 81.7%) については、86.3%で、あった。(◎)</p> <p>ウ 部活動 80%以上を目指す (H26 79.2%) については、83.5%で、あった。(○)</p> <p>エ 生徒会活動 70%以上を目指す (H26 64.0%) については、86%で、あった。(◎)</p> <p>オ 修学旅行 80%以上の維持を目指す。 (H26 82.4%) については、96.3%で、あった。(◎)</p> <p>従来より高い満足度を得ていた体育祭・文化祭において、85%以上の更に高い評価を得ることができた。特に最終学年の3年生は、89.9%と非常に高い数値であった。部活動の満足度も目標を達成し、生徒会活動においては目標を大きく上回り、生徒全体の意識を変えることができたといえる。</p>
2 確かな学力の育成と生徒個々の進路実現	<p>(1) 教員の指導力の向上を図る</p> <p>(2) 3学年を見通した進路指導計画・課外講習を再点検し、進路実績の向上を図る</p>	<p>ア・各学年・教科による年度目標と、その達成のための計画を明確にする。</p> <p>イ・研究授業の充実と、授業アンケート結果を活用することで、研修を進める。</p> <p>ウ・ICT活用を進める。 (一つの学年全クラスに、ビデオプロジェクター、書写カメラを設置する)</p> <p>ア・分野別説明会、大学見学会等、進路選択の学年行事を進路指導部が総括して計画実施する。</p> <p>イ・低学年からの進路講習を定着させ、学習習慣を確立させる。(H26年度進学者ののべ9割が、全2年生の6割が、進学講習に参加したが、1年生は、1割以下であった)</p> <p>ウ・進路決定までの学年進行に合わせて、基礎学力調査判定を向上させる。</p> <p>エ・自学自習の力を伸ばさせ、難関大学の進学実績の向上をめざす</p>	<p>ア・目標達成度を検証 各組織で、中期的目標達成を見据えた計画を立て、個々の自己申告票の目標設定に反映させる。</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断による授業満足度 わかりやすく楽しい 60%以上 (H26 55.4%) 自分の考えをまとめる、発表する機会がある 60%以上 (H26 49.9%)</p> <p>ウ・ICT機器を活用している 60%以上 (H26 51.3%)</p> <p>ア 各取り組みに対する満足度 80%以上を維持する。(H26 84.5%)</p> <p>イ 全1年生の5割以上を進学講習に参加させる。</p> <p>ウ各学年で実施する基礎学力調査 学習到達度Bゾーン以上(26年度27%)の生徒の割合を平成27年度には30%にする。</p> <p>エ 国公立・難関私立大学の現役合格者平成26年度13人を平成27年度には20人以上にする。</p>	<p>ア・目標達成度を検証 外部摸試による学習到達度Bゾーンの目標は、1年生39.5%、2年生28.5%で、平均35.5%と目標を大きく上回ったが、2年生の数学が特に顕著であったが、国・数・英すべての教科で、成果を上げた。(◎)</p> <p>イわかりやすいで、70.7%(H26 55.4%)(◎)</p> <p>ウ ICT機器を活用しているで、73.2%(H26 51.3%)と、大きく上回った。当然のことながら全教室にICTを設置した1年生では、92.7%であり、授業内容は、画期的に躍進した。これを受けて、来年度が始まるまでに残りの全てのHR教室にICTを設置することにした。(◎)</p> <p>ア 各取り組みに対する満足度 80%以上を維持する。(H26 84.5%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年 適切な指導を受けられる・・・86.7%</li> <li>・2年 分野別説明会・・・89.6%</li> <li>・1年 大学見学会(学校相談会・大学見学会)・・・92.9% 計 89.7%であった(◎)</li> </ul> <p>イ 1年生全員が進学講習に参加した。(◎)</p> <p>ウ 秋実施の基礎学力調査・学習到達度Bゾーン以上は、2年生国語34.0%、数学30.3%、英語21.3%、1年生国語38.1%、数学43.6%、英語36.4%で平均は、33.95%であった。(◎)</p> <p>特に1年生は、39.4%であり中期的目標の40%は、目前である。</p> <p>エ 国公立・難関私立大学の合格者21人(含浪人6人)</p>
3 幅広い交流体験の推進	<p>(1) 障がいがある人との交流活動を通して、自分だけでなく他の人も大切にす本当の“やさしさ”</p>	<p>ア・藤井寺支援学校との交流活動を継承する。</p>	<p>生徒向け学校教育自己診断で、平成26年度の、 ・環境、国際理解や障がいのある人との接し方について学習する機会がある。80%以上を維持する</p>	<p>ア 平成27年度の学校教育自己診断で「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」で82.6%であった。(○)</p>

## 府立藤井寺高等学校

<p>を育む (2) さまざまな人との幅広い交流体験活動の推進</p>	<p>ア・地域活動の継続と、地元小・中学校との連携 イ・高大連携を推進する。 ウ・語学研修の定例化。 ・中正高級中学との交流行事を成功させる。 エ・先輩や諸分野のゲストを招き、生徒自らの生き方を考える機会を増やす。</p>	<p>・保護者や地域の人々に関わる機会がある 60%以上を、めざす。</p>	<p>ア 平成 27 年度の学校教育自己診断で「PTA や地域、近隣の学校(支援学校や藤井寺北小学校)との交流をしている」で、77%(平成 26 年度 50.2%)の満足度であった。(◎) イ 生徒保健委員会の職域活動において、大学生との共同活動を行った他、本校生が大学の授業や実際に大学に行き教授の授業を受ける機会を継続して持っている。(○) ウ オーストラリア語学研修に 12 人の生徒が参加し、単独実施を継続した。(○) また、台湾の中正高級中学の歓迎行事は全校生徒で、午前中の交流を行い貴重な時間を共有した。(○) エ 例年通り実施した。(○)</p>
---	---	--	--